

重点品目

なす

(冬春) ～品質日本一のブランド維持・向上～

(夏秋) ～水田の高収益作物として県内全域で生産拡大～

1 県内の主な産地 (R 4 年度 県農産課調べ)

岡山市 (34ha)、真庭市 (13ha)

2 生産状況 (農林水産統計)

区 分	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	R 4 /H30
栽培面積 (ha)	131	126	124	124	125	95.4%
うち冬春	23	21	21	21	20	87.0%
うち夏秋	108	105	103	103	105	97.2%
生産量 (t)	4,890	5,130	4,890	5,100	4,950	101.2%
うち冬春	2,420	2,350	2,270	2,330	1,960	81.0%
うち夏秋	2,470	2,780	2,620	2,770	2,990	121.1%
産出額 (億円)	20	19	19	18	—	—%

3 特長

- ・県内はもとより、京阪神、京浜など広く出荷されており、県産野菜を代表する品目の一つである。

- ・天敵利用等 IPM 技術の普及により、化学農薬の使用量が減少している。

(冬春なす)

- ・環境制御技術 (炭酸ガス施用等) が普及しつつある。

(夏秋なす)

- ・秋冬の品目との複合経営が可能な水田利用野菜である。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大

(冬春なす)

- ・単為結果性品種の導入等による省力化の推進
- ・環境制御技術等の導入による収量・品質の向上

(夏秋なす)

- ・水田の畑地化による作付け推進
- ・日射制御型拍動自動かん水装置等による省力化や低コスト生産体制の取組支援
- ・輪作、土壌消毒による土壌病害虫対策の徹底

